

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
2020年度事業報告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2020年度の経過

2020年度の事業として、予定していた第35回リハ工学カンファレンス、福祉機器コンテスト2020、災害対策リハ工学セミナーなどの企画、第47回国際福祉機器展(H.C.R.2020)およびバリアフリー2021(大阪市)などへの出展は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため、全て中止あるいは延期になってしまいました。第35回リハ工学カンファレンスについては、2021年度のオンラインでの開催に向けて準備を進めていただきました。福祉機器コンテスト2021については、今回からコンテスト事務局を有限会社車座から神奈川リハビリテーション病院に移し、その移管手続きも含めて2020年12月から準備を進めたうえ、選考委員会を2021年4月に設置し、募集・選考をすすめました。協会誌はVol.35 No.3からVol.36 No.2まで4回発行しました。分科会・専門委員会関連事業として、SIG関連では2021年度からの全10SIGの法人内SIGへの移行を達成するよう取り組みましたが、基本的に内部化についての理解は得られたものの、さらに調整が必要となつたため、2022年度からの法人内移行を目指し、スケジュール再調整、覚書などの必要文書の草案作りが行われました。地域支部もさらなる活性化を目指し、Web会議システム(Zoom他)を活用して、支部代表者会議を3回開催しました。災害対策委員会では、災害対策リハ工学セミナーの開催は行えなかつたものの、協会事業化に向けた検討を行い2021年度からの事業委員会への移行に伴い、2020年度で専門委員会の役目を終えました。また、一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)理事会に参加し、各種委員会に委員を派遣しました。JRATは、組織の確立と地域JRATの設置に注力した一年でしたが、当協会も協力して発災時の「福祉機器の課題解決WG(仮称)」の設置が決定しました。また、協会ホームページ(以下、HP)の充実も図ってきました。企画推進事業として、2019年度から継続して全国頸髄損傷者連絡会と共同で頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査およびその結果のまとめを行い、9月19日「頸損解体新書2020中間報告会」を開催し、最終報告会の準備を進めました。国際連携では、GAATO(Global Alliance of Assistive Technology Organization)加盟団体として、総会、理事会に参加し、GAATOが進める支援機器の効果に関する国際的な検討、世界保健機構(WHO)との協力・連携事業にも積極的に参加してきました。

今年度は、以上のように人が集まるイベントや会議の開催や参加ができず、協会活動の全体的な停滞を余儀なくされました。その分、協会および各事業の在り方や今後の展望について考察し、議論を交わす機会が増えました。対面式の会議が開催できないため、協会としてWeb会議システムを導入し、理事会、支部・SIG代表者会議、各委員会を開催しました。会議開催の調整が容易になり、意見交換が活発に行えるようになり会議の活性化につながったことに加え、会議費の削減にもつながりました。総務では、2021年度代議員・役員候補者選挙にWeb選挙システムを導入し、年度をまたいで施行しました。初めての試みで、多少の混乱があり、次回以降への課題としています。

以上、2020年度の事業の概要についてご報告させていただきました。最後になりましたが、役員改選のため、現体制の理事会は、2021年度定時社員総会をもって活動を終了いたします。2020年度の活動期間の大半がCOVID-19への対応に追われてしまいましたが、社員、会員の皆様のご協力でこの1年を乗り越えることができました。皆様への感謝をもって、事業概要の報告を終わらせていただきます。

会長 桂 律也

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2020年7月1日 正会員626名（うち社員（代議員）76名）、学生会員2名
賛助会員数15社（47口）

2021年6月30日 正会員590名（うち社員（代議員）76名）、学生会員2名
賛助会員数15社（47口）

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2020年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：剣持悟・鈴木太）

1) 第35回リハ工学カンファレンス準備

第35回リハ工学カンファレンス in 北九州の開催準備を行った。

・会期：2021年（令和3年）9月25日（土）～26日（日）

・会場：オンライン開催

・大会テーマ：リハ工学で支える 新しいライフスタイル

・大会長：繁成剛氏（長野大学／一般社団法人日本リハビリテーション工学協会顧問）

・実行委員長：中村詩子氏（北九州市立総合療育センター）

2) 第36回リハ工学カンファレンス準備

第36回リハ工学カンファレンスを広島で開催すべく準備を行った。

3) カンファレンスの在り方検討

・COVID-19 感染拡大防止対策を契機として、移動が困難な会員も参加できるように参加・発表方法を見直しオンライン参加がしやすいようなしくみを検討した

・参加者同士の質疑、議論、交流やディスカッションが今まで以上に安全で円滑、そして活発に行えるように検討を進めた

・地域支部や各SIG、協会誌などとも連携して、様々なテーマを継続的に議論し、検討する場を提供できるよう検討を進めた

2-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：村田知之）

1) 福祉機器コンテスト2019

・4月のバリアフリー2021（大阪）で福祉機器コンテストの広報として受賞作品の紹介ビラの配布を予定していたが、展示会がCOVID-19の影響により2021年8月に延期となった

2) 福祉機器コンテスト2020

・COVID-19 感染拡大防止のため中止となった

・中止に伴い福祉機器コンテスト2020事務局との委託契約を解除した（2020年6月）

・中止に伴い福祉機器コンテスト2021事務局設置までの期間、コンテストに関連する機材や資料等の管理について福祉機器コンテスト2020事務局と寄託品保管の覚書を交わした（2020年12月）

3) 福祉機器コンテスト2021

・福祉機器コンテスト2021事務局の設置（2020年12月～）

・福祉機器コンテスト2020事務局との引継ぎ

・選考委員会の設置（2021年4月～）

・後援：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会、国立研究開発法人新エネル

ギー・産業技術総合開発機構、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会

- ・特別協賛：フランスベッド株式会社
- ・協賛：株式会社有菌製作所、株式会社ケーブ
- ・募集対象：機器開発部門、学生部門
- ・広報開始・応募要綱配布：2021年4月14日
- ・受付期限：機器開発部門 2021年6月1日、学生部門 2021年7月9日
- ・広報：会員、関係企業、団体、過去の応募者等への郵送、協会誌への掲載、協会ホームページへの掲載（※展示会での広報は、展示会の中止により実施していない）

2-3. 協会誌関連（担当理事：石濱裕規）

1) 協会誌編集

- ・編集委員会はコロナ禍における効率性と安全性を重視する観点から全てオンラインにて実施し、ZoomとChatworkを併用した
- ・年4回の編集委員会開催に加え、テーマを絞った臨時編集委員会を隨時オンライン開催した
- ・執筆依頼、査読等、執筆・投稿者との連絡を全てメールのみで行い、郵送業務を掲載誌・謝礼送付時のみとした
- ・2021年度新編集委員の公募と推薦を進め、4名が承認された

2) 協会誌発行

以下の協会誌を発刊した。

- ・Vol. 35 No. 3 2020/08 連載「新型コロナウイルスへの対応 第1回」
(コロナ禍で通常の特集執筆依頼が困難であったため、編集委員会内で記事を編纂した)
- ・Vol. 35 No. 4 2020/11 特集「新しいリハビリテーション領域と機器」
- ・Vol. 36 No. 1 2021/02 特集「障害と働き方」
- ・Vol. 36 No. 2 2021/05 特集「技を伝える～障害者の生活を支えるための暗黙知とその伝承～」
- ・「連載」として、新たに「新型コロナウイルスへの対応」「災害対策とリハ工学」を開始した
- ・「報告」は、学会・イベント等の参加報告依頼が困難となっており、上記連載の充実をはかるとともに、書評・芸術評を新たに試行している

3) 投稿論文（査読依頼）

- ・投稿規定／執筆規定（依頼原稿）を理事会承認の上制定、Vol. 35 No. 3／HP上にて更新公開し、投稿規定改定をもち、投稿規定検討委員会の活動を終了した
- ・投稿規定改定に伴い査読依頼書式の改定を進めた
- ・査読委員会設立承認に伴い、査読内規規定案・査読委員選定手順について検討し、査読委員候補者の推举を進めた
- ・journal@resja.or.jp名義でのメール送信配信権限を取得し、2020年10月より記事依頼等をメールで行い、編集委員会事務局業務の効率化と郵送業務・費用の削減を図った
- ・2020年度投稿7件、掲載不可4件、再投稿掲載不可1件、査読中1件、受理1件であった

4) 協会誌の段階的電子化

- ・レフェリーサインの電子署名化を含め投稿—査読—結果通知の電子化を進めた
- ・特集・連載等は認証制、論文等投稿記事はオープンアクセス化し、共に最新号より登載した。また、公益性という観点から情報公開を優先すべき連載についてはオープンアクセス公開とした
- ・投稿規定改定に伴い、電子版協会誌をカラー画像掲載し、動画付記事も公開した

- ・報告記事は最新号より協会 HP 上にて公開を進めた

2-4. 分科会 (SIG) (担当理事: 谷口公友)

1) SIG への活動支援

- ・現在ある 10 SIG の活動を支援するために、協会誌や HP への講習会等の情報掲載の呼びかけを行った
- ・2019 年度の SIG 代表者会議を受けて、全 SIG が法人内 SIG となるように各種条件の整理を行い、法人外 SIG の法人内 SIG への移行を順次進めていく予定であったが、COVID-19 等の影響から、2020 年 7 月からの法人 SIG 化は実現できなかった。各 SIG とオンライン会議を定期的に開催し、内部化への懸念事項に関して確認作業を行った。懸念事項に対する協会の考え方を示すなど情報共有を行った

2) SIG の位置づけ検討委員会

- ・2022 年度からの法人 SIG 化に向け、移行までのスケジュール、各種書類 (趣意書、覚書、SIG 規定など) のひな型を作成した

2020 年度 SIG 活動報告 期間: 2020 年 7 月～2021 年 6 月 ※SIG 会員数 (協会員数) は 2021 年 6 月 1 日現在

SIG 姿勢保持	https://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数: 133 名 (34 名)
代表者: 繁成剛(長野大学)	事務局長: 児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
・WEB サイト運営、会員専用 ML への情報発信、リハ工学協会事業への協力		
・講習会: COVID-19 感染拡大防止対策として次年度に延期決定 会場: 山西福祉記念会館 (予定)		
・役員会の開催: 2021 年 3 月 28 日 オンライン会議 (ホスト: 長野大学)		
・書籍 (小児から高齢者までの姿勢保持・第 2 版) や資料集 PDF 版の販売		
車いす SIG	https://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数: 95 名 (42 名)
代表者: 沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)	事務局長: 深野栄子	
・オンライン会議による役員会開催 (5 回)		
・オンライン講習会開催の検討		
・WEB サイト運営、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他		
自助具 SIG		会員数: 9 名 (9 名)
代表者: 岡田英志 (ヒューマン)	事務局長: 岡田英志 (ヒューマン)	
・テクノエイド協会「3D プリンターを活用して製作する自助具情報の在り方に関する研究」へ参加		
・Facebook を利用した情報発信		
乗り物 SIG	https://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数: 5 名 (5 名)
代表者: 鮎澤孝 (有限会社 セカンドステージ)	事務局長: 片石任 (株式会社フロンティア)	
・メール等利用の WEB サイト内容検討		
SIG 褥そう防止装置	https://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数: 20 名 (20 名)
代表者: 新妻淳子(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)		
事務局長: 河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター)		
・HP の更新、褥瘡学会との連携 (委員派遣・セミナーの後援)		
・COVID-19 対応指針作成・遠隔支援・役員会合 (2021 年 2 月 18 日)		
コミュニケーション SIG	https://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数: 67 名 (20 名)
代表者: 渡辺崇史 (日本福祉大学)	事務局長: 上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
・コミュニケーション SIG メンバーメーリングリストの再構築		
・HP 修正		
SIG 住まいづくり	https://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数: 107 名 (60 名)
代表者: 橋本美芽 (首都大学東京)	事務局長: 鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
・HP リニューアル検討		
特別支援教育 SIG		会員数: 5 名 (5 名)
代表者: 松田靖史 (川村義肢株式会社)	事務局長: 高原光恵(鳴門教育大学)	
・特別支援関連事例の収集 (教材、資料)		
移乗機器 SIG	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html	会員数: 123 名 (18 名)
代表者: 古田恒輔 (神戸学院大学)	事務局長: 青木久美子 (宇部記念病院訪問リハビリテーション)	
・オンラインセミナーの実施: 2021 年 4 月 24 日 参加者 10 名		
・役員会の開催: オンライン会議 11 回		
・会員アンケート調査の実施: コロナ禍における移乗用具に関する講習会の必要性や実施希望について		

義肢装具 SIG 代表者：笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科） ・講習会開催：未開催 ・HP 運営	https://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数：105名（28名） 事務局長：砂野義信
--	---	----------------------------

2-5. 分科会（支部）・専門委員会（災害対策）関連（担当理事：植田瑞昌）

1) 支部への活動支援

全国6支部が整備され、会員はいずれかの地域の支部に所属し、各地域でのリハ工学にかかわる人的ネットワークを構築することができるようになった。

- ・協会誌やHPで全支部への周知を行った。課題として、支部ごとに差があるため、各支部間で情報共有しさらなる活動への支援を積極的に行なった
- ・支部活動費が円滑に使用できるように先払いとし活動後精算の手続きが取れるようにした
- ・さらに、これまでカンファレンス時年1回の支部代表者会議であったが、2020年度は支部代表者会議をオンライン形式で3回行い、情報共有を積極的に行なった
- ・各支部の活動報告は別紙を参照

2) 災害対策委員会

- ・災害対策委員会をオンライン形式で開催し、常設化に向け、課題抽出や今後の計画等の検討を行なった。さらに、設置目的や委員会の立ち上げのための委員の選出方法の検討を行なった
- ・JRATの各種委員会（戦略会議、広報委員会、研修企画委員会）へ委員の派遣を行い、JRAT加盟各団体との協力関係の構築およびJRAT内における当協会の役割の精査を行なった。また委員会内でメーリングリストにて情報共有を行なった
- ・一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会（JASPA）の災害復興車椅子メンテナンス事業はCOVID-19感染拡大防止のため中止になった
- ・公益財団法人テクノエイド協会発行「福祉用具シリーズ」へ執筆協力を行なった
- ・協会誌等へ情報発信等を行なった
- ・第4回災害対策リハ工学セミナーの企画運営を行なったが中止となった。本事業は第41回八王子いちょう祭りの一部として、イーアス高尾（八王子市）にて11月に開催予定であり災害に対応したグッズ等の展示予定であったが、中止となつたため出展しなかつた
- ・事業化に向け、定款施行細則の改正作業を行なった
- ・JRAT理事会に参加「福祉機器の課題解決WG（仮称）」の設置が決まった
- ・委員会の常設化に伴い、専門委員会の活動を終了し、報告書の作成を行なった

2-6. 企画推進事業（企画担当理事：西村顕／事業統括担当理事：中村俊哉）

協会の広報活動及び会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展セミナー等の開催を行なった

1) 学会展示会、広報活動強化

- ・10月に出展を予定していた「第47回国際福祉機器展H.C.R.2020」が中止となった
- ・「第47回国際福祉機器展H.C.R.2020」の中止に伴い開催された代替オンラインイベント「福祉機器Web2020」（公開期間：2020年10月21日～2021年3月31日）への出展を行なった
- ・11月に開催が予定され中止となった「第22回西日本国際福祉機器展（PPC2020）」の代替オンラインイベント「スマホとネットで西日本国際福祉機器展」（公開期間：2020年12月01日～2021年2月12日）への出展を行なった
- ・4月に出展を予定していた「バリアフリー2021」はコロナ禍の影響を受け、2021年8月に延期

となつた

- ・例年出展を行つてゐる、高知福祉機器展、新潟福祉機器展もコロナ禍の影響により開催が中止となつた

2) セミナー開催

- ・H.C.R. 2020 及び例年出展を行つてゐる展示会の中止・延期に伴い、展示会に付帯するセミナーの開催が実施出来なかつた

3) 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020 の実施

- ・前年度に引き続き、全国頸髄損傷者連絡会と共同により、頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査を実施し、その結果をまとめた作業を実施した。なお、コロナ禍の影響により、予定されたスケジュールに対し、約半年の期間延長となつた
- ・9月19日（土）に「頸損解体新書 2020 中間報告会」を実行委員会主催により実施した
- ・本調査の結果として、2021年6月に「頸損解体新書 2020」を発行。協会員には2021年8月に頒布を予定している
- ・当初 2020 年度内に予定していた、「頸損解体新書 2020 最終報告会（仮）」については、スケジュール延長に伴い、2021年10月に開催する予定となつた

4) 合同シンポジウムの開催

- ・開催を検討していたが、コロナ禍の影響により中止となつた

5) 災害対策に関する講習会の開催

- ・開催を検討していたが、コロナ禍の影響により中止となつた

6) 新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進

- ・引き続き、現在の事業の見直しと共に、新たな企画推進事業、コロナ禍での事業のあり方等の検討を行つた
- ・コロナ禍の影響により、セミナー等の試行的な実施には至らなかつた

7) 情報保障の拡充

- ・リハ工学カンファレンス in 北九州の一年延期や各セミナーの中止等により、イベントに対する情報保障は、実施に至らなかつた

2-7. 国際関連の事業（担当理事：森田千晶）

1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・GAATO (Global Alliance of Assistive Technology Organization) への参画とともにRESJAからは井上剛伸氏（国立障害者リハビリテーションセンター）、桂会長が理事に就任した。GAATOとRESJAとの連携を図るためにオンラインでの打ち合わせ、またGAATO総会に参加した
- ・GAATOが計画をしている支援機器の利用効果に関するワークショップについて豪州リハビリテーション工学協会（ARATA）とRESJAが中心となり西太平洋地域の関係団体に参加の提案をした
- ・i-CREATe2021開催に関する情報をHPに掲載し、協会会員に情報提供をした

2) 国際連携推進委員会の開催

- ・委員会は開催しなかつたが、必要事項はメールにて意見交換を行つた

3. 総務

3-1. 規則・選挙（担当理事：水澤二郎）

1) 2021年度（令和3年度）代議員・役員候補者選挙

- ・2020年度定時社員総会における第5号議案「代議員選出規則の改定（案）」の決議を受けて、代議員選出規則の改定を行つた

- ・Web 選挙システムを導入、施行した
 - ・選挙管理委員会の任期満了に伴い、新たな選挙管理委員会を発足し、当該委員会業務に関しての確認及び取りまとめを行った
 - ・代議員並びに役員の任期満了に伴い、Web 選挙システムによる代議員選挙、役員候補者選挙を行った
- 2) 規程の整備
- ・各種規則等の規定状況についてその内容を精査し、運用上の問題点や改定の必要性の有無を確認した

3-2. 財務（担当理事：岡野善記）

- 1) 法人会計の管理
- ・2020 年度決算の実施
 - ・2021 年度予算案の提案
 - ・四半期決算の実施
- 2) 分科会・支部の連結決算の準備
- ・現状把握
 - ・会計システムの構築

3-3. 総会・理事会等会議開催（担当理事：江原喜人）

- 1) 2020 年度定時社員総会を開催
- ・2020 年 8 月 30 日（日）、13:30～14:30、谷岡学園 梅田サテライトオフィス CURIO-CITY（大阪市）において定時社員総会を開催した
- 2) 2020 年度第 1 回（通算第 64 回）～第 5 回（通算第 68 回）理事会の開催
- ・2020 年 7 月 19 日、10 月 11 日、12 月 13 日、2021 年 3 月 7 日、6 月 13 日にオンライン会議による理事会を開催した
- 3) 2021 年度定時社員総会の開催準備
- ・各理事に「2020 年度事業報告」および「2021 年度事業計画書・予算要求書」の提出を依頼し、「2020 年度事業報告（案）」および「2021 年度事業計画（案）」の作成を行った

3-4. 広報・渉外（担当理事：杉本昌子・鈴木太）

- 1) 協会リーフレット
- ・更新、印刷なし
- 2) 協会ホームページ
- ・適宜更新を実施
 - ・各支部活動、各 SIG 活動のためのサーバー追加については、今期実施せず
 - ・支部代表者会議に出席し、メーリングリスト（以下、ML）の利用・HP 掲載について説明を行った
- 3) Web 会議システムの利用
- ・COVID-19 感染拡大防止のため、理事会をすべて Zoom を利用して実施した
 - ・各委員会におけるミーティングの機会を作った
 - ・Zoom 情報共有のため、Google カレンダーを利用した
- 4) Web 管理委員会

- ・広報・渉外専用のグループメールを設定した
- ・XserverDrive の導入準備
- ・ファイル共有ソフトの検討
- ・会員 ML 配信 26 件、FreeML 配信 : 35 件

5) COVID-19 感染拡大防止対策

- ・車椅子ユーザー向け感染予防情報の提供を行った
- ・協会 HP 掲載、協会 Facebook 投稿など、広く情報提供を行った

4. 事務局（事務局統括理事：水澤二郎）

1) 事務局運営

- ・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた

2) 各事業における活動

- ・COVID-19 感染拡大防止の観点から展示会が中止または Web 展示会となつたため、ブース出展がなく広報活動は行えなかつた

3) 協力依頼への対応

- ・第 58 回日本リハビリテーション医学会(令和 3 年 6 月 10~13 日：京都)の合同企画（オンデマンド配信講演）依頼に対し、桂会長を派遣した。障害当事者協会員の協力を得て『重度障害者の「参加」に対する総合的支援』というタイトルで講演を実施し、6 月 14 日～7 月 30 日にオンデマンド配信された

5. 後援・協賛事業

2020年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	一般社団法人日本機械学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本生活支援工学会	2020年9月2日～4日 →延期(1年程度)	LIFE2020
2	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインターフェース学会	2020年9月2日～4日 →中止	ヒューマンインターフェースシンポジウム2020
3	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2020年9月25日～27日 →2020年9月25日～10月25日 (Web開催)	第54回日本作業療法学会
4	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2020年11月～2021年3月	第8回ウェルフェアデザインコンテスト
5	協賛	バイオメカニズム学会	2020年12月5日～6日	第41回バイオメカニズム学術講演会
6	協賛	感覚代行研究会	2020年12月7日～11日 (Web開催)	第46回(2020年)感覚代行シンポジウム
7	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2020年12月16日～18日 (オンライン開催)	第21回SICEシステムインテグレーション部門講演会
8	後援	特定非営利活動法人 バイオフィリアリハビリテーション学会	2021年2月11日 (Zoom開催)	第24回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
9	後援	公益社団法人日本理学療法士協会会	2021年5月29日～30日 (オンライン開催)	第55回日本理学療法学術研修大会2020inおおいた
10	後援	第2回福祉用具専門相談員研究大会	2021年6月21日 (オンライン併用開催)	第2回福祉用具専門相談員研究大会

【別紙】

◆支部の2020年度活動報告◆

◇東日本支部

1. 事業概要

東日本支部は、組織作りができないまま経過しており、現状では支部役員も決まっていない状態である。

◇関東・甲信越支部

1. 事業概要

関東・甲信越支部では、年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関する研究や知識・技術等の普及・啓発を図ることを計画していたが、COVID-19感染拡大防止のため活動を自粛した。

2. 主要事業

災害対策キャンプの企画・運営を2020年秋または2021年春に予定していたが、COVID-19感染拡大防止のために延期とした。

3. その他

(1) 支部役員会1の開催

日時：2021年1月26日（火）20:00～21:00

場所：Web会議システム

内容：2020年度の報告と2021年度の活動について

(2) 支部役員会2の開催

日時：2021年6月15日（火）20:00～21:00

場所：Web会議システム

内容：2020年度の報告と2021年度の活動計画について

キャンプ企画、連続セミナー、「やってみよう」、事務運営方法について

(3) 「やってみよう」Web会議システムを活用して、リハ工学に関してフリーディスカッションを3回開催した。

◇中部支部

1. 事業概要

中部支部では、福祉用具メーカーの見学や支部会員によるミーティング等の実施を計画していたが、COVID-19感染拡大防止のために活動を自粛した。

2. 主要事業

今年度においては、COVID-19感染拡大防止のため、特に開催しなかった。

3. その他

(1) 支部世話人メンバーの見直し

内容：中部支部の地域性を考慮して、東海地区と北陸地区にそれぞれ世話人をおいた。その上で、今後の活動について情報交換を図った

(2) 支部役員会（世話人会）の開催

日時：2021年5月22日（土）10:00～11:30

場所：web会議システム

内容：2021度の事業計画案と運営方法の意見交換

◇関西支部

1. 事業概要

関西支部では、2020年度支部セミナーを行うべく、オンラインによる役員会にて企画を立てた。しかし、その後のCOVID-19感染拡大防止による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などのため実施を断念した。昨年度に引き続きバリアフリー2021も延期となった（2021年8月25～27日にハイブリッドでの実施予定）。

2. 主要事業

（1）支部セミナーの開催

福祉サービスや福祉機器の利用状況に関する地域差をテーマとしたオンラインセミナーを3～5月あたりでの実施を目指し企画したが、COVID-19の影響により、打合せ等もままならならず、中止となった。

（2）バリアフリー2021 ブース運営および出展社セミナーの開催

COVID-19の影響により展示会が延期となった

当初開催予定日：2021年4月22日（木）～24日（土）

場所：インテックス大阪

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

なし

4. その他

（1）支部役員会の開催

日時：2020年10月15日（木）18:30～20:00

場所：Web会議システム

内容：協会誌（11月発行）への掲載事項の検討、支部の役員体制について、2020年度の支部企画事業について

◇中国・四国支部

1. 事業概要

中国・四国支部では、2020年度支部オンラインセミナーを6月26日（土）に開催を予定した。

2. 主要事業

（1）支部セミナーの開催

●中国・四国支部セミナー

開催日：2021年6月26日（土） 13:30～16:00

場所：Web会議システム

参加者：30名

テーマ：「当事者こそが変える！人手不足の介護現場」

進行：司会 中国・四国支部 谷口公友

「ノーリフティングの必要性」 中国・四国支部 下元佳子

当事者スピーカー 中国・四国支部 鈴木太

ゲストスピーカー 濱田知加氏（当事者家族）

西川まり子氏（訪問看護ステーションおたすけまん）

3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

特に無し

4. その他

(1) 支部役員会の開催

日時：2021年5月11日（火） 19:00～20:30

場所：Web会議システム

内容：6月のオンラインセミナーの流れの確認

- ・2020年度の事業報告・決算報告、2021年度の事業計画案・収支予算案について
 - ・2021年度の活動に向けて、中国・四国支部の活動用のシャツを作ることとした
- 上記以外は、中国・四国支部LINEグループを作りチャットでやり取りしていた。

◇九州支部

1. 事業概要

第35回リハ工学カンファレンス in 北九州への協力をを行い、リハビリテーション工学に関わる研究や情報の普及・啓発を図った。

2. 主要事業

●九州支部オフラインミーティング

第22回西日本国際福祉機器展で展示ブースを巡りながら出展社および来場者（リハ工学協会会員も含む）とディスカッションする計画だったが、COVID-19の影響により、開催がオンラインとなつたため、実施できなかつた。

3. 協会事業への協力

リハ工学カンファレンス in 北九州プレカンファレンスに実行委員として協力した。

主催：第35回リハ工学カンファレンス in 北九州実行委員会

開催日：2021年2月23日（祝）13:30～15:30

場所：Web会議システム（ホスト・コントロールは西日本工業大学内で実施）

テーマ：リハ工学で支える新しいライフスタイルwith電動車いす

4. その他

(1) 支部役員会の開催

メーリングリスト「koy-branch-ml@resja.or.jp」にて適宜開催した。